

mui Lab 株式会社

所在地

京都市中京区夷川通柳馬場東入俵屋町

事業内容

ソフトウェア業

T E L

075-708-8660

カーム・テクノロジーソフトウェアとプロダクト開発

情報テクノロジーの未来を示すプロダクト mui を通じてスマートホーム業界を中心に世界的な評価を得る。

沿革

◆ 起業に至る経緯

mui Lab 株式会社は、産業・電子分野の特殊印刷を主力とする NISSHA 株式会社の社内ベンチャー制度を活かして、同社プロパーの大本和典氏が2017年10月に設立したベンチャー企業。カーム・テクノロジーの新しいユーザーインターフェースである「mui」(ムイ)の開発から始まった企業である。

「mui」とは、自然素材である木材とタッチパネル技術、またクラウドコンピューティングを統合したハードウェアとソフトウェアのシステムである。入力用スイッチやディスプレイ機能としての使い方に加え、インターネットに接続することで多様なクラウドベースのサービスと連携し、得られた情報をリアルタイムでディスプレイに表示する。これらソフトウェアのカスタマイズサービスやライセンス提供を軸とした事業を展開してきたが、2019年4月にMBOを実行して大手資本より離脱した。

◆ 強み・アピールポイント

「mui」は一見、単なる木材にしか見えないが、手で触れるとLEDディスプレイが表面に輝いて現れ、家電の操作から天気予報・ニュースの受信、テキスト・音声メッセージのやり取りまでこなせる万能デバイスである。操作後はディスプレイが消えて木の状態に戻り、インテリアに溶け込んだ目立たない存在となるため、ユーザーはテクノロジーを意識せずに暮らすことが可能である。

このため、スマホのように絶え間なくユーザーの注意を喚起する従来のインターフェースとは異なり、必要な情報のみを天然素材を通して届ける穏やかなテクノロジー（カーム・テクノロジー）として評価されている。

世界最大のテクノロジーショーケースであるCES（米国ラスベガスで每期開催）の2019イノベーション賞、Best of CES(2020年)に選ばれるなど、世界的にも認知度が高まっている製品である。

特徴・強み

◆ ビジネスモデルとその特徴

京都府下の企業を委託先とするファブレスメーカーで、ソフトウェアとデザインを内製化した垂直統合型のビジネスモデルを確立している。

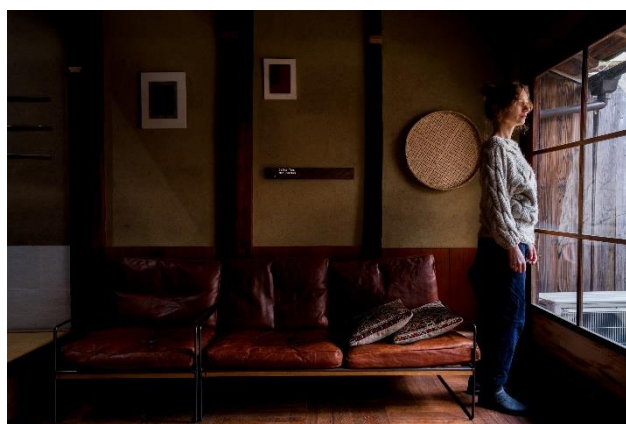
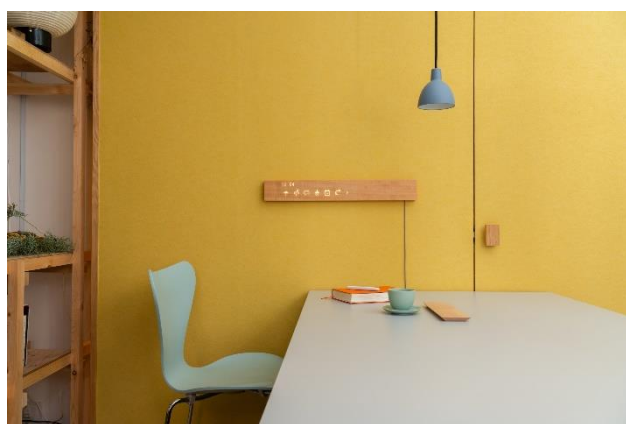
【手で mui に触れると、情報が LED 表示される】



【mui に映し出される情報】



【インテリアの一部として溶け込む存在に】



将来展望

◆ 今後の事業展開

5年後、10年後の目標とする到達点やロールモデル

ソフトウェア事業の拡大、北米や欧州への海外戦略を推し進める意向で、2025年にイグジットを検討、2030年には確固たる経営基盤の確立

を目指している。

◆ 今後新たに開発したい商材・サービス

拡充したい販路（ターゲット層）

現在は BtoB（BtoC）を中心に店舗、施設向け UI（インターフェース）事業、スマートホームを中心とする CX（カスタマーエクスペリエンス）事業を中心に販路を拡大中。前者では飲食店、オフィス、ホテルなども含めたデジタルとリアルとの融合する場での顧客体験創出を行い、後者ではテック企業、住宅事業者向けにスマートホームテクノロジーの価値創出からサービス実装まで行い、これからの暮らしにおけるデジタル技術の新しい価値提供を行っている。

PR 事項

◆ 提供サービスにおける PR 事項

DX が進む世界における、人とテクノロジーの「調和」は今後ますます重要になり、情報テクノロジーが人のウェルビーイングに対して及ぼす影響がますます見直されている。こうした中、mui の提唱してきた「無為的なテクノロジー」「佇まいのデザイン」は、今後日本京都発の考え方として、よりグローバルに浸透していく普遍的なものであり、当社ではそれを一貫通貫に実装可能な能力を持っている。

また、mui Lab ならではの提供価値に対して世界中の企業とのコラボレーションを検討しており、すでの実績を構築している。今後も国内外、各方面とのコラボレーションが可能で、グローバルでの潜在需要も高く、無限の成長余地を残している。

会社概要

設立：2017年10月

資本金：20,000千円

従業員数：10人

URL：<https://mui.jp/>

主力サービス開始時期：2020年2月